

第2期計画の目標と具体的取組内容

◆ 具体的取組の検討の進め方について

実証実験の評価と改善案、モニタリング結果等に基づく具体的取組のメニューを抽出し、メニュー毎に実現性、費用対効果、生態系に及ぼす影響等を勘案し絞り込みを行う。

実証実験の評価と具体的取組の検討の進め方については、図1のフロー図に示す。

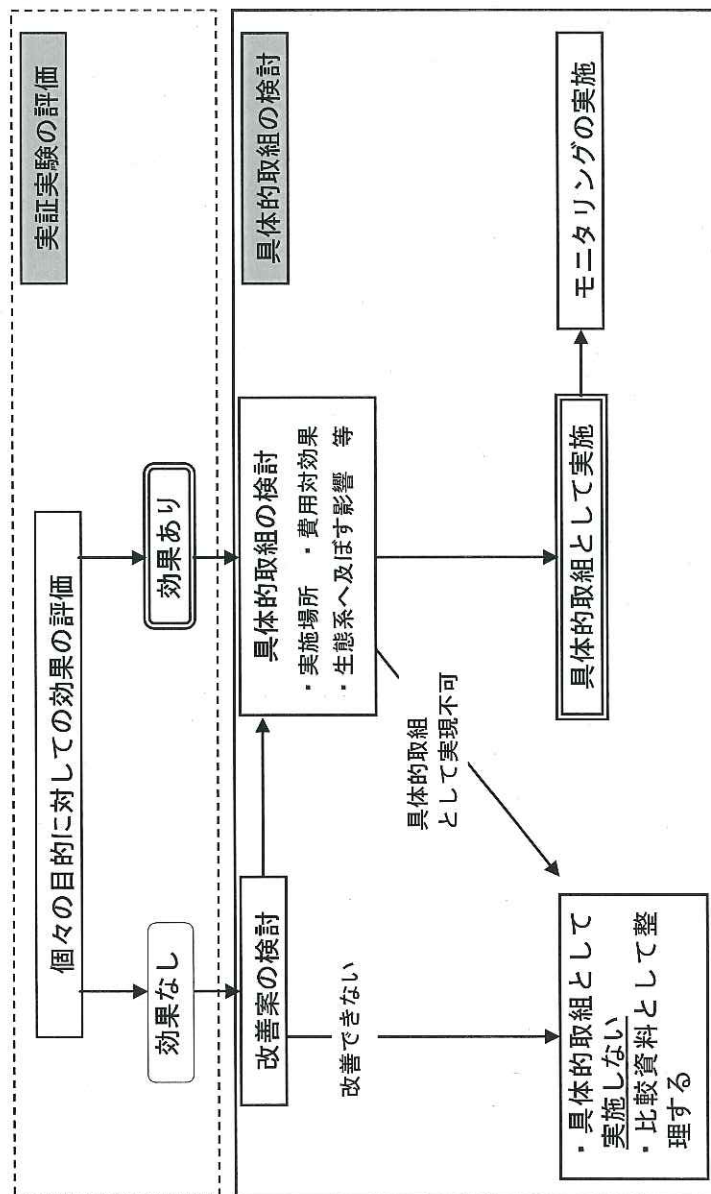


図1 実証実験の評価と具体的取組の検討の進め方

◆ 図2 第2期計画の目標と具体的取組内容

【第1期計画】

中期目標：常に多くの実生が生育する環境を整える。

短期目標：当面は実証実験により実生の生育環境を明らかにする。

植生タイプ別調査

大台ヶ原を7つの植生タイプに区分し、現況把握を実施した。

実証実験

7つの植生タイプごとに問題点を抽出し、実証実験（地表処理）を実施した。

【第2期計画】

7つの植生タイプにはあ
てはまらない箇所への保全
への対応が必要。

静的にとらえては対応でき
ない動的な変化をしてい
る箇所への対応が必要。
(森林後退が進んでいる
箇所など)

実証実験を評価し、
植生タイプごとに具体的
な再生手法を検討する。

中期目標

① 大台ヶ原を特徴づける森林生態系の保全

② 森林の更新環境の回復

③ 森林後退の抑制

④ ミヤコザサ草地から森林への遷移

短期目標

① 緊急に保全が必要な箇所における対策の強化(a)

② 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進(b)
・ 林床のミヤコザサの抑制(c)
・ 実生の定着環境等森林更新に必要な適性な林床環境の明確化(d)

今回の検討部分

③ 森林後退の場所における樹木減少の抑制(e)
・ 森林後退の場所における森林更新の場の保全(f)
・ 森林後退の場所における森林更新の場の創出(g)

④ 森林への遷移に誘導するため
の手法の検討(h)

◆ 表1 第2期計画の目標と具体的取組内容

※ 具体的取組内容の一部については、ボランティア等との協働作業による実施を検討。

中期目標	短期目標	実施場所	具体的取組内容	優先度	森林再生に資する効果	コスト	備考
① 大台ヶ原を特徴づける森林生態系の保全	a. 緊急に保全が必要な箇所における対策の強化	西大台湧水地など多様性の高い箇	防鹿柵の設置	◎	中	高	・H21～H22までの設置箇所について検討済(資料1) ・次期5か年計画の検討
	b. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	母樹へのラス巻きの実施(トウヒ・ウラジロモミ等)	◎	高	中	・老朽化したラスの張り直しの実施 ・ラスの素材検討
② 森林の更新環境の回復	a. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	防鹿柵外に自生するトウヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の周囲に簡易柵を設置	◎	高	低	・簡易柵は人力でも施工可能なものとする
	b. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	表層土除去(A層とミヤコザサの根系のみの除去)による菌害の除去	△	中	高	・植生タイプⅠ～Ⅲにおいて、地表処理による菌害除去効果について把握しておく(H21調査中)
c. 林床のミヤコザサの抑制	a. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	西大台林冠ギャップ地	パッチタイプエンス(小規模防鹿柵)の設置	◎	高	中	・保護が必要な林冠ギャップ地の把握 ・人力でも施工可能な仕様の検討 ・歩道周辺、利用者からの可視範囲における配慮
	b. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	ウサギの食害が顕著な場所	防鹿柵内におけるウサギ侵入防止柵の設置(防鹿柵内の倒木・根株周囲、植栽苗木周囲、ササ刈り等の地表処理実施箇所など)	△	中	低	・防鹿柵内でのウサギの動態を把握しておく ・パッチタイプエンスを実施する場合は、パッチタイプエンスのネットのスカート部分をメッシュの細かいものにする
d. 実生の定着環境等森林更新に必要な適正な林床環境の明確化	a. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	ミヤコザサ型林床	防草シートや寒冷紗で覆うことによりミヤコザサを枯死させる手法等の検討	△	中	中	・防鹿柵内に設置し、ミヤコザサを枯死させるために試験的に実施
	b. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	ミヤコザサ型林床	機械刈りによる大規模なササ刈りの検討	△	中	高	・シカによる被食を受けている防鹿柵外で試験的に実施
c. 林床のミヤコザサの抑制	a. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	倒木・根株の量的な評価の実施	◎	高	低	・実生の発生・定着に適した十分な倒木・根株があれば地表処理は必要ない
	b. 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	実証実験の実施による地表処理の効果の評価	○	中	高	・針葉樹林の更新環境を整えるには表層土除去(腐植層、ミヤコザサの根系の除去)が効果的である ・地表処理を行う場合はギャップ地や林縁で実施する

中期目標	短期目標	実施場所	具体的取組内容	優先度	森林再生に資する効果	コスト	備考
③ 森林後退の抑制	e. 森林後退の場所における樹木減少の抑制	東大台の森林後退が進んでいる場所 ミヤコザサ型林床	母樹へのララス巻きの実施 (トウヒ・ウラジロモミ等) 防鹿柵外に自生するトウヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の周囲に簡易柵を設置 防鹿柵内に自生するトウヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の周囲のササ刈りの実施 防鹿柵外に存在する倒木・根株の周囲に簡易柵を設置 防鹿柵内に存在する倒木・根株の周囲のササ刈りを実施 岩礫地などの針葉樹の実生・稚樹の生育地に小規模防鹿柵を設置 防鹿柵内の岩礫地などの針葉樹の実生・稚樹の生育地に必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 表層土除去の実施	◎ ◎ ○ ○ ○ ○ △ △	高 高 高 高 高 高 中 中	中 低 低 低 低 中 低 高	・植生タイプⅠとⅡの境界部分の疎林地にて実施 ・H21に500本程度実施予定 ・ラスの素材検討 ・簡易柵は人力でも施工可能なものとする ・実生・稚樹の周囲の坪刈を実施 ・稚樹の成長に合わせてササ刈の継続期間を検討しておく ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・ギャップ地などに分布しており、実生・稚樹が生育しているものを対象として実施 ・倒木・根株の表面を被っているササを除去する程度 ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・既存の防鹿柵内でウサギの食害が顕著な場所が必要に応じて設置 ・針葉樹の更新の場として実施 ・A層(腐植を含んだ層)とミヤコザサの根系の除去程度にとどめる ・発芽した実生が定着できるようコケが早期に回復するような手法を検討する ・明るい箇所(ギャップ地や林縁)で実施 ・ミヤコザサの回復状況に応じてササ刈を実施
	f. 森林後退の場所における森林更新の場の保全		全ての森林更新過程が損なわれた箇所(植生タイプⅠ(ミヤコザサ草地))において、森林への遷移の誘導を図るためにコアとなる母樹群の形成を促すための試験的な植栽の実施 ※圃場トウヒ苗の利用	◎	高	中	・植栽および植栽後の管理手法の検討 ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・植栽する苗木が不足する場合には新たな苗木の生産を検討 ・植栽する苗木の樹種の検討
④ ミヤコザサ草地から森林への遷移	h. 森林への遷移に誘導するための手法の検討	東大台 ミヤコザサ草地					

◎:第2期計画期間で優先的に実施、○:第2期計画期間での実施、△:必要に応じて実施

高:現存する母樹・後継樹等を保護することにより森林再生が期待されるもの

中:後継樹の良好な生育環境を創出することにより森林再生が期待されるもの

高:施工コストが高いと考えられるもの、中:施工コストがそれほど高くないと考えられるもの、低:施工コストが低いと考えられるもの

※優先度

※森林再生に資する効果

※コスト

図3 第2期計画の目標と具体的取組内容(模式図)

